

重要

大地震対応マニュアル 学生用

～ 常時携帯してください ～

このマニュアルは大学に被害が及ぶような大地震を想定しています。大地震でなくても公共機関や電気・ガス・水道等のインフラが被害を受け、通常の学生生活が送れない際もこのマニュアルを参考にしてください。



このマニュアルを拾得された方は、各地区学生支援室学生生活係へお届けください。

緊急地震速報が放送された

●先ずできること

- 火を消す。ドアを開ける。
- 薬品等の始末（最低限）。
- エレベーター内では…
全ての停止階ボタンを押し、最寄の階で降りる。
- 屋外では、塀や建物から離れる。

①地震発生！

●自分の身を守る

- ガラスや棚、薬品から離れる。
- 頭を守り、机の下等へもぐる。
- 火気使用時は、身の安全確認のうえ消火する。
- ドア付近の人は、余裕があれば、出口確保する。
- エレベーター内では…
全ての停止階ボタンを押し、最寄の階で降りる。
- 屋外では、塀や建物から離れる。

②揺れがおさまったら

●心構え

冷静に、落ち着いて。周りの状況を把握する。
建物の傾き、壁・天井の崩れ（危険性）を確認する。
火災発生時、安全な範囲で、助け合い初期消火をする。
負傷者がいたら、安全な範囲で、助け合い応急手当をし、最寄の事務室に連絡する。

●自身が負傷した場合

大声で助けを呼ぶ。笛を吹く。
声が出ない・音を出す（周囲の人に気づいてもらう）

●発生後数分経過後の対応

余震に備え、窓・ドアを開け、避難ルートを確保する。
ガスの元栓を締め二次災害を防ぐ。
電気器具のスイッチを切り、プラグを抜く。
配電盤のある部屋はスイッチを切る。
化学物質は棚等へ整理する。

●避難を判断するときのポイント

棚等の転倒、薬品の漏れが無く、
建物の傾き、壁・天井の崩れが無く、
火災の発生が無い（消火できる）。

その場を動かない方が安全

建物の損傷が大きい。消火できない火災。
避難誘導員の避難指示がある。
屋内に留まることは危険と自己判断。

屋外の一時的集合場所に避難
(建屋近くの空地又はグラウンド：参考情報その2)

●避難行動に移るときポイント

出火時は、タオルやハンカチで口を覆い避難する。
安全な避難ルートを確認する。
階段で避難（エレベーターは使わない）。
避難時は他の人と押し合わない。

③落ち着いたら

●家族との安否連絡

NTT災害用伝言ダイヤル【171】

NTT 固定・公衆電話で利用可能(携帯電話は制限有)

伝言の録音

伝言の再生

【171】をダイヤル

【171】をダイヤル

【1】をダイヤル

【2】をダイヤル

市外局番＋
自分の電話番号

市外局番＋
相手の電話番号

「伝言録音」

「伝言再生」

- 伝言録音時間…1伝言あたり30秒以内
- 伝言保存期間…録音してから48時間
- 伝言蓄積数…電話番号あたり1～10伝言

インターネットによる情報登録検索

- NTT 災害用ブロードバンド伝言板 web171
<https://www.web171.jp/top.php>
- Google Person Finder (消息情報)
<http://japan.person-finder.appspot.com/> など

携帯各社が提供する災害用伝言板

各社QRコード

●NTT DoCoMo



●au by KDDI



●SoftBank



●WILLCOM



または、各社メニューから「災害伝言板」を選択

④地震発生数時間後

●帰宅するか、大学に残るか

自宅が大学から **10 km 以内**の人
は、**帰宅を検討**

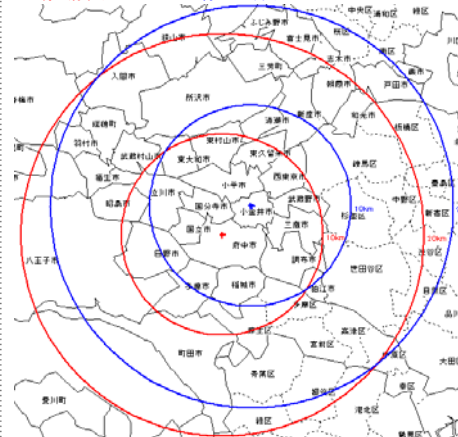
地震の規模、起きた時間、交通機関の状況、自身の体力により、臨機応変に判断する。

●帰宅する際の注意点

- ・自宅や帰路上に建物の崩壊や火災の発生がないこと。
- ・帰宅中に日没にならない（停電していない）こと。
- ・地震発生後数時間おいてから帰宅を開始すること。
- ・原則、徒歩で帰宅すると考えること。
(災害時の目安：4時間/10km)
- ・ターミナル駅・繁華街は避けること。
- ・幹線道路を通ること。複数の帰路を想定し、安全な経路を選択すること。
- ・なるべく集団で帰宅すること

●大学から10 km、20 kmの地図

赤：府中キャンパスから 青：小金井キャンパスから



自宅が大学から **10 km** よりも遠い人、帰路の安全が確認できない人→ウラ面へ

⑤ 地震発生数時間後

自宅が大学から10kmよりも遠い人、
帰路の安全が確認できない人は避難所へ

●府中地区 (防災本部：042-367-5652)

防災組織	場所
地区防災本部	農学部本館 農学府長室
学内避難所(非常時)対峙場所	農学部本館前
府中市の一時(いつとき)集合場所	府中市立第一中学校 校庭 府中市立第九小学校 校庭

●小金井地区 (防災本部：042-388-7000)

防災組織	場所
地区防災本部	工学部中央棟 工学府長室
学内避難所(非常時)対峙場所	工学部中央棟前
小金井市の一時(いつとき)避難場所	小金井市立第一小学校 校庭 小金井市立東小学校 校庭

本学における避難所の運営は、皆さんと協力して行います。
1日～数日程度様子を見て、交通機関などの復旧状況により、
帰宅するかどうか判断してください。

⑥ 大学への安否連絡

余震が落ち着いたら、大学へ「**学籍番号、氏名、生年月日、所属、学年、本人の状態、自宅の状態、実家の状態、家族支持者の状態等**」について連絡してください。

※災害時につき電話連絡は控えてください。

●インターネットによる報告

フォームへ入力後、送信してください。

<http://tuat-ampi.jp/>

東京都や隣県等で震度6弱以上の地震が発生した場合は自動的に登録してください。

●インターネットが利用できない状況下での報告

・大学が別途、配布する「**安否報告カード**」に必要事項を記載し、所属学科・専攻担当窓口へ提出する。

・「**はがき**」による連絡

〒183-8538 東京都府中市晴見町3-8-1

東京農工大学学生総合支援課

●研究室直員の学生は指導教員への連絡

⑦ 大学からの連絡

●休講・授業再開のお知らせ

決定後速やかに大学が電凸したメールアドレスへの高言や、大学ホームページ、新聞などのメディアを通じてお知らせします。

送付先メールアドレス：500XXXXXXX@st.tuat.ac.jp

安否確認サイト：<http://tuat-ampi.jp/>

大学ホームページ：<http://www.tuat.ac.jp/>

(緊急時)

(通常時)

参考情報 その1

●帰宅支援

コンビニエンスストア、ファミリーレストラン、ガソリンスタンド等において、災害時帰宅支援ステーションが開設される。

《赤十字エイドステーション(東京都)》H24.3.31現在
情報提供、簡単な応急手当・水分の補給・休憩等

名称	最寄駅	沿線道路
調布駅 北口	京王線 調布駅	旧甲州街道
府中市 白糸台	京王線 飛田給駅	甲州街道
国立市 谷保天満宮前	JR南武線 谷保駅	甲州街道
立川市 日野橋	多摩都市モラル 柴崎体育館駅	甲州街道
立川市 一番町	西武拝島線 武蔵砂川駅	五日市街道
武蔵野市 八幡町	JR中央線 武蔵境駅	五日市街道
国分寺市 窪東公園	西武国分寺線 恋ヶ窪駅	府中街道・五日市街道
西東京市 田無神社	西武新宿線 田無駅	青梅街道
狛江市 和泉多摩川	小田急小田原線 和泉多摩川駅	世田谷通り
R246 世田谷 郵便局	東急田園都市線 三軒茶屋駅	玉川通り
八王子市立 第五中学校	京王線 京王八王子駅	甲州街道

参考情報 その2

●学内一時(いつとき)集合場所

地震直後、避難の必要が生じた場合、施設毎の責任者によって誘導されます。

府中地区	各館・棟の出入口前
小金井地区	中央棟前保存空地、1号館南側保存緑地、講義棟前保存緑地

●震災対応用備品

各地区に防災倉庫を設け震災対応用備品を備えています。

原則、地区防災本部が配布等の対応を行います。

災害用毛布、災害用敷マット、防水シート、シュラフ、保存水、白飯(アルファ米)、けんちん汁・豚汁、割り箸、スプーン、紙皿、紙椀、紙コップ

発電機付投光機、発電機・ガソリン、燃料携行缶、ガソリン、缶詰、エンジンオイル、収納二つ折り担架、テント、レスキューキット、ヘルメット、ヘッドライト、拡声器、防水ライト、ラジオ、安全キャンドル、軍手、日本手ぬぐい、合羽、防塵マスク、ゴム長靴、蓋付プラスチックケース、ポリ袋、100m巻きロープ、浄水器、浄水器交換フィルター、ウォーターコンテナ、簡易トイレ、トイレトペーパー、ポリバケツ、蓋付ポリバケツ、なべ、携帯コンロ、カセットボンベ、防災用かまどセット、燗薪

日頃の準備 ~教室・研究室~

- ・最寄りの非常階段の位置はどこか。
- ・最寄りの消火器の設置位置はどこか。
- ・いざというときに部屋から避難しやすいか。
- ・避難経路の廊下にもものを置かない。
- ・学内の一時集合場所や広域避難場所への避難経路を確認しているか。
- ・自宅へ歩いて帰れるか、帰宅する場合の帰宅経路は決まっているか。
- ・自宅への連絡方法は決めているか(災害用伝言ダイヤル・インターネットによる情報登録検索)。
- ・研究室の関係者の緊急連絡先はわかっているか。
- ・薬品庫は収納された薬品が転倒しないようになっているか。
- ・高圧ガスボンベの転倒防止はしてあるか。
- ・菌株入り容器の落下防止はしてあるか。
- ・実験動物は逃げ出さない構造になっているか。

日頃の準備 ~自宅~

- ・照明、棚、たんすなどの転倒防止はしてあるか。
- ・貴重品は安全な場所に保管しているか。
- ・避難場所を知っているか、避難経路を決めているか。
- ・助けを求めるための笛を携帯しているか。
- ・非常持ち出し品を準備しているか。
- ・非常用備品(3日分程度)を準備しているか。

貴重品	現金、預金通帳、印鑑、免許証、権利証書、健康保険証
非常食品	乾パン、アルファ米、缶詰、栄養補助食品、ミネラルウォーター、紙皿、割り箸
ラジオ・ライト	FM・AM携帯ラジオ、懐中電灯(1個/1人、LEDが良)、予備乾電池
応急医薬品	絆創膏、傷薬、包帯、胃腸薬、鎮痛剤、解熱剤、目薬、消毒薬、常備薬、綿棒
その他	非常持ち出し袋、下着、上着、靴下、軍手、雨具、タオル、ティッシュペーパー、ウェットティッシュ、ライター、ポリ袋、生理用品、缶切り、栓抜き、コンタクトレンズ、予備のめがね、ゴーグル、ヘルメット、帽子、マスク、筆記具

●非常持ち出し品の例

緊急時個人情報

学籍番号	
所属	フリカノ
氏名	
緊急連絡先	
住所	
電話番号	
生年月日	年 月 日
血液型	
持病	
常備薬	
アレルギー	

※記入後は、自己の責任において紛失しないよう管理すること。

家族の情報

●家族の連絡先

名前	連絡先

●家族の行動表

名前	日頃いる可能性の高い場所
家族の集合場所	避難先